

まちづくり 提 言 書

第 6 回時点案

令和 7 年 2 月 6 日

令和 6 年度水戸市市政モニター

目 次

まちづくり提言書について	2
------------------------	---

【第 1 部】

私達が理想とするまちの姿	3
------------------------	---

【第 2 部】

理想のまちを実現するための課題と取組 . . .	20
--------------------------	----

(資料)

市政モニター活動内容	32
市政モニター名簿	34

まちづくり提言書について

私たち市政モニターは、「水戸市の移住・定住促進のまちづくり」をテーマと定め、皆から選ばれるまちについてこの1年間研究し、提言書としてまとめました。

この提言書は、初めにこれからも暮らしたいと思えるような、「**私達が理想とするまちの姿**」を描き、次に、「**理想のまちを実現するための課題と取組**」を挙げています。

私達が理想とするまちの姿は、次のとおりです。

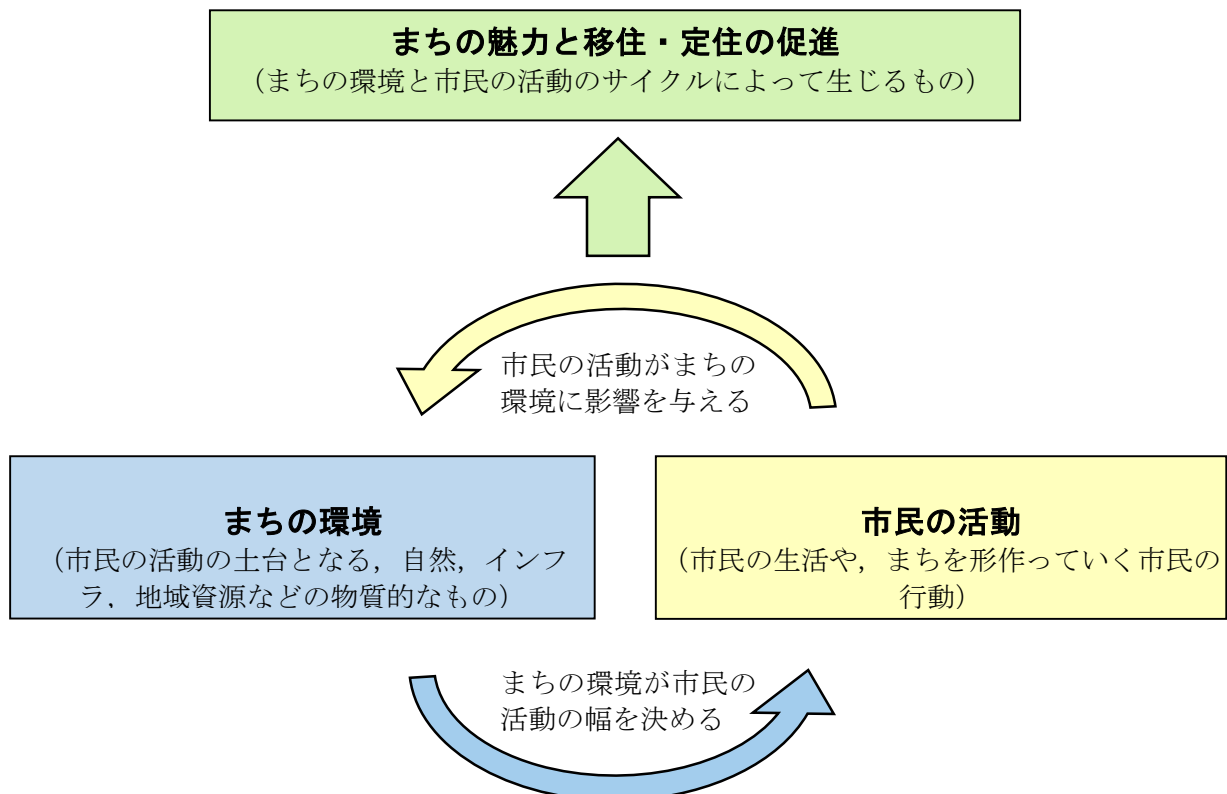
【提言1】社会的養護をうけ、子どもが最善の利益を得られるまち	4, 21
【提言2】Pre-primaryからはじまる学修支援	7, 25
【提言3】近くに支援者がいない家庭でも安心子育てができる水戸	9, 27
【提言4】ハンディキャップがあっても大丈夫！私たちの子→孫→その先もずっと、子育てしたい 水戸市を目指して	12, 28
【提言5】どこでも仕事ができる時代なら水戸でいい、水戸がいい。3.5次産業の街	16, 29
【提言6】自然環境あふれるまちで利便性が良くて優れた教育が受けられるまち	18, 30

【第 1 部】

私達が理想とするまちの姿

第 1 部の見方

本提言書では、社会全体を「まちの環境」（自然，インフラ，地域資源などの物質的なもの）と「市民の活動」（市民の生活や，まちを形作っていく市民の行動）の循環構造と捉え，その循環によって「まちの魅力と移住・定住の促進」が生じるものとしています。これに従い，理想とするまちの姿を記載しています。



【提言 1】社会的養護をうけ、子どもが最善の利益を得られるまち



・ まちの環境について

このまちは、何らかの理由により親と一緒に暮らせない子どものために、社会的養護のための施設やシステムが充実している。また、子どもがしっかりとした大人に成長できるような環境が社会的に構築されたまちである。特に、家庭的な環境で子どもが生活できることを重視し、里親やファミリーホームが充実している。

里親制度については、一般的な家庭で子どもが育つこと（家庭養護）が出来るように養育里親・養子縁組里親・専門里親などの各種里親制度がある。その中でも、里親としての知識や経験が豊富にあり、専門的ケアができると認められた専門里親が多い。専門里親は、虐待を受けた子どもや、非行等の問題行動を抱える子ども、心身に障害をもつ子どもへの養育ができる。したがって、養育里親や養子縁組里親では対応が困難と判断され施設養護にならざるを得ない子どもが、施設ではなく里親のもとで家庭養護を受けることができる。

また、里子を養育している里親が、実子を持つ親と同じように育休を取得できる制度もあるので、里親と仕事を両立して生活することも選択できる環境がある。

このまちでは、子どもの健康かつ健全な成長発達を重視していることから、里親の登録に当たっては通常の登録の要件の他、子ども（以下、特別な表記がない限り里子と実子を併せて“子ども”と表現する）の年齢や発達段階に応じた生活環境の提供を重視している。具体的には、子どものプライバシーを尊重するための個室の提供、子どもの安全を守る環境整備、子どもの数に応じた自家用車の確保などがあげられる。また、それらの生活環境は子どもの成長と共に流動的に変更され、里親と子どもの双方が住みやすいように、その都度見直され、調整されている。

児童養護施設等については、家庭養護を重視する観点から、里親による擁護ができない状況で緊急的に保護する要保護児童が生じた場合など、やむを得ない状況で要保護児童を受け入れることを目的に運営されている。

施設の状況は、小規模での児童養護施設が県内に十分に整備（乳児院3カ所、児童養護施設19カ所程度）されていることから、要保護児童を預かることができる枠は最低限確保されており、預かり先が見つからないということはない。また、これらの施設に所属する専門職者は、相談相手の不足による里親の孤立や、養育がうまくいかない

時など里親の精神的身体的負担が大きくなることを防ぐサポートを行う。さらに、里親にレスパイトが必要なときは、一時的に里子を施設で預かるシステムもある。レスパイトを利用する際は、見捨てられるのではないかという不安が里子に生じないように十分な説明やケアが提供される。また、各家庭の里親や里子の交流のため季節ごとのイベントの他、自由に出入りが可能なサロンなどが運営されている。

ユニセフの子どもの権利条約では【差別の禁止、子どもの最善の利益、生命・生存及び発達に対する権利、子どもの意見の尊重】の4原則が定められている。

・市民の活動について

このまちの子どもは、何らかの理由により育て親がいなくなってしまった場合に、周りの大人のサポートによって、直ちに里親による家庭養護を受けることができている。

家庭養護では、里子は里親と共に様々な生活体験を重ねている。例えば、親が病気になれば看護を行い、晩ご飯の前には里親と一緒に食材の買い出しに行くといったように、家庭養護を通して人としての自然な生活の仕方を経験し、大人へと成長することができている。

こうして育った里子たちは、このまちとひとに愛着を持って暮らしている。そのため、里親から自立した後も地元で進学や就職をし、物理的にも精神的にも里親家庭との距離を近くに保ちながら、引き続きこのまちで暮らしている。

里親をはじめ、周囲の色々な人達との関係性を構築し、ひとへの愛着がもてるように成長した里子は、対人関係を築くことへの不安や困難感が過度ではなく人並みであり、結婚や子どもをもつといったライフステージを迎えることができている。特に、虐待や不適切な養育を受けていた里子であっても、里親の養護により特定の大人から愛されることで親との健全な関係性を知っているため、成人して自分の子どもを授かったときに同じことを繰り返すことがなく、良好な親子関係を築くことができている。

なお、一時的に里子になったとしても、実の親がまた子育てできる状態になった場合には、実の親の元へ戻ることもできている。

一方、このまちの里親は、生まれてきてくれた貴重な子どもが、他者や社会は安全であり信頼できるという感覚をもった大人に成長できるように、子どもの愛着形成を重視した家庭養護に取り組んでいる。愛着形成を重視した家庭養護とは、“里子を選ぶ”という里親本位の行動をとることなく、社会的養護のプロフェッショナルとしての高い意識を持って家庭養護に取り組むことである。そして、プロフェッショナルの意識とは、里親は養育にかかる時間や労力を無償提供する存在ではなく、里親手当を受け取り、社会的養護を行う社会資源であるという自覚を持つことである。

そのため里親はさまざまな里子に対応できるように、社会的養護に関わる社会制度や育児に係る知識（たとえば児童心理、保健、教育など）に関する学修のほか、アンガーマネジメントやストレスマネジメントといった里親自身をコントロールするスキルを修得するために自己研鑽を積んでいる。

事実、里子の中には、生きづらさを抱えていたり、何らかの障害を有するいわゆる“育てにくい子ども”であったり、見た目で分かる外国籍の子どもであるケースや、きょうだい揃っての里親委託となるケースなど、様々な難しさを抱えている場合がある。

このように里親は特に1つの子育て方法に固執することなく、その里子に合わせて柔軟に対応している。

なお、高いスキルが求められる専門里親については、ほかの里親と同じくらいに数があり、それによって里親の質も高いまちになっている。そのため、里親が里子の養育に困難を感じて委託を解除するケースや、里子が施設や別の里親のところをたらい回しされるケースは非常に少ない。

こうした質の高い里親の養育によって、里子は里子であるということを理由に将来の進路を狭めることなく、進学や就職、結婚などの将来を自

由に選べることができています。

さらには、里子を養育している里親も実子と同じように育休を取得できるので、里子が病気などの看護や学校行事への保護者の参加などでもできる。里親に専念する職業里親だけでなく、仕事と両立しながら里子を養育している里親もいる。

また、里親だけでなくこのまちで暮らす全ての大人は、子どもの権利条約の4原則【差別の禁止、子どもの最善の利益、生命・生存及び発達に対する権利、子どもの意見の尊重】への理解がある。そのため、どのような子どもであっても差別せず、子どもの最善の利益を追求するため、子どもの命を脅かすことなく成長発達を助け、子どもの意見に耳を傾けている。

同時に、子どもは未来を担う存在、つまり地域の将来を支える納税者になる人であるという理念を持っており、里子についても、一般家庭の子どもと同じように進学や就職の選択肢を持てるように、まち全体で支援している。

特に里子が高等教育をうけることで、その課程の終了後には職業人となり、水戸市に教育の成果が還元されることを理解している。そのため、例えば、里子の高等教育の受験に係る費用および学費の負担や里親家庭から自立した後の水戸市内での就職や、水戸市内で安心して暮らせるための様々な公的な支援が行われる必要があると考えている。高等教育に適性がない里子であっても、里子の能力を伸ばし、可能な範囲で自立できるように支援することを当然とする価値観を有している。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちは、まち全体で子どもが最善の利益を得られることを最大限に重視しており、あるべき親子の絆や人と人とのつながりを、誰でも経験することができる。このために里親制度が充実しており、たとえ血縁のない関係であったとしても親と子の間にしっかりとした愛着形成ができています。

里親制度が実施される際には、形式的ではなく

実質的な親子関係を築けるように、子ども目線の利益が最優先になるようにされている。例えば、不幸にも生みの親が育てることができなくなってしまった場合には、環境の変化によるストレスを少なくするため、原則として施設を経ずに直接、里親に委託される。また、長期的な視点から、結婚したときに生活のギャップや驚きを感じずに暮らせるように、「大人（親）も病気になることがある」、「料理は自分たちで食材を買ってきて、自分たちで作るもの」といった、通常の家と変わらない当たり前の生活感や生活体験を得ることができる。

そのため、このまちの里子は基本的に「育てる人」と「育てられる人」という関係ではなく、「親」と「子」という関係性を経験し、大人になることができる。特に、家庭養護で育った里子は、自分のことだけを見てくれる特定の大人がいるという安心を抱くことができる。

こうした家庭養護によって、里子は身体的・精神的に安全が守られながら、社会や他者に対する安心感や信頼感を持って過ごすことで、他者を信頼すると共に、他者から信頼される大人へと成長している。

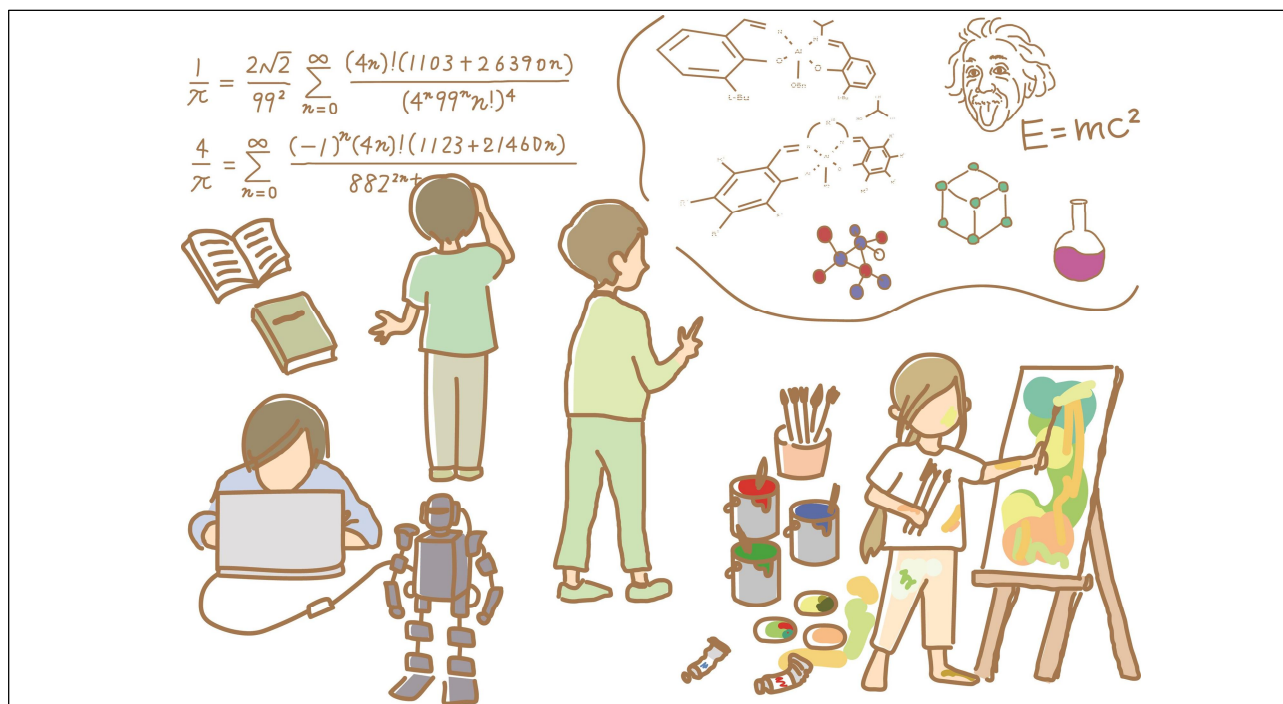
そして、成人して里親家庭を離れるときには、里親との間にしっかりとした愛着が形成されているため、“社会にひとり放り出される”という恐怖を感じずに自立することができる。さらに、里子であることを理由に将来の選択肢が狭められることが無く、自分の未来を自由に決めることができるため、将来への希望を持ちながら自立していける。

以上のことから、このまちで育った里子は、このまちと人に愛着を持って暮らしている。

また、このまちは、親と子、人と人との温かい絆がまち全体にあふれているため、水戸市に関わった人々はこのまちに魅力を感じ、水戸市への移住定住が促進されている。

このまちを実現するための課題と取組をP21に記載します。

【提言2】Pre-primaryからはじまる学修支援



・まちの環境について

このまちは、通常行われる学校教育や、就学前の子ども向けの学習塾、初等教育を受ける子ども向けの学童クラブなどに加えて、ギフテッド（同世代の子どもよりも先天的に高い能力を持っている人々）をはじめとした領域依存的な才能を持つ子どもを対象にした教育環境が整っています。

具体的には、次の3つの方法により、自分より上の年齢（学年）の子たちが受ける学校教育を先取りして学ぶことが出来ます（以下、これら3つの教育方法を総称して「特別教育」という）。

1つ目は飛び級です。これは既存の枠にとらわれずに（高校生でなくても）学年を飛び越えて上の学年の子たちの教室に混ざることができ、自分より上の年齢の子たちと一緒に同じ教室で同じ教育を受けるものです。

2つ目は専門クラスです。これは放課後に通える領域依存的な才能を伸長するための教室です。これは無料もしくは安価な料金で受講でき、契約期間も年間からチケット制の単回まで自由に選ぶことができます。

3つ目はオンライン学習です。小学校へ通うのが適正ではない場合は、自宅でオンラインによる学習講座を受けることもできます。これも専門ク

ラスと同様に、無料もしくは安価な料金で受講でき、契約期間も年間からチケット制の単回まで自由に選ぶことができます。

なお、これら3つの方法は本人や保護者からの聞き取りをもとに実施されるもので、本人や保護者が希望しなければ実施されず、通常通り同年齢の子たちと一緒に学校教育を受けることになります。

また、他の子どもとちょっと違う（かもしれない）と不安に思う保護者や、子どもの領域依存的な才能を伸ばしたいと考えている保護者へのサポート役として、保護者が相談できるチューターがいます。

・市民の活動について

このまちにすむ領域依存的な才能を持つ子どもは、自分が希望をすれば、自分のレベルにあった高い水準の学習で才能を伸ばすことができます。例えば、小学生であっても高IQであれば、高校生に混ざって高校の授業を受けることができたり、絵画の分野に特に秀でていれば、芸術大学の美術科の先生から絵を教わることができます。

一方、このまちにすむ大人は、領域依存的な才

能をもつ子どもがその才能を伸ばせるように応援しています。

教育する力を持った大人は、子どもへの教育に理解を示し、自らのスキルや専門性を子どもの学習に活かすことに誇りをもっています。そのため、自らの意思で専門クラスを開催します。専門クラスの開催は、水戸市により、時期や規模、回数、場所、方法などが調整され、事務手続きなども代行されます。そのため、クラス開催者は面倒な手続きに悩むことなく、子どもへの教育活動に専念できています。

保護者は、領域依存的な才能をもつ子どもをもつ親同士のコミュニティに参加し、高IQやギフテッドなどに関する情報共有をしています。また、子どもが領域依存的な才能をもつ子どもかもしれないと気づいたときには、保護者は「みとっこ1丁目」にアクセスすれば気軽にチューターに相談できます。

チューターは、領域依存的な才能をもつ子どもとその保護者の相談できる窓口になっており、子どもや保護者の希望に合わせた教育環境の選択肢を提示してくれます。

このように、まち全体で子どもの才能を伸ばすことを推進しています。

領域依存的な才能を伸ばし、功績を残す水戸出身者が増えることで、市民が水戸市に誇りをもつことができるようになり、転入者も増えるので、移住定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP25に記載します。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちは、子どもの興味や関心を大切にし、その子どもの得意なことを見つけ、子どもが楽しみながら才能を伸ばすことを大切にしています。就学前や小学生という早い段階から複数の大人の目で多方面から子どもの能力が観察されます。そのため、ギフテッドをはじめとした領域依存的な才能を持つ子どもに気づくことができます。

このような社会的なサポートによる教育を受けて育った子どもたちは、自分に自信を持った大人になっています。得意な分野を活かして研究者やエンジニアになって企業やまちに貢献しています。

その取り組みにより、将来が期待される子どもの市外転出を防ぐと同時に、子どもの教育に関心がある家庭が全国から転入してきています。

【提言3】近くに支援者がいない家庭でも安心子育てができる水戸

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

このまちは、出産時や育児期に近くに支援者がいない家庭でも安心子育てができます。近くに支援者がいない子育て世帯は、「子育て」と「日常の雑務」と「仕事」を全て同時に行う必要があります。このまちでは、そうした負担を減らせる環境が整っています。

始めに、家庭内の環境としては、子育てをする親に対する支援が充実しています。

具体的には、産前から産後の親に市から無料のヘルパーチケットが配布されています。このチケットを利用できる人は、妊婦や出産日から2年未満の産婦、2歳未満の乳幼児を養育している人です。このチケットを利用すると、自宅にホームヘルパーの資格を持った人が訪問し、家事や育児の支援をしてくれます。家事の支援としては、生活必需品の買い物や食事の準備および片付け、衣類の洗濯、部屋の掃除機かけをしてくれます。育児の支援としては、調乳や沐浴に関わる準備や片付け、沐浴介助、抱っこの手伝い、1歳～2歳くらいまでの子どものおむつ替えや遊び相手、子どもの習い事の送迎や子どもを同伴できない用事の際に自宅で子どものお世話をしてくれます。

ヘルパーは、平日の1日につき1回2時間の範囲内で利用できます。年間上限は20回で、近く

に頼れる親族がいない市外からの転入者については更に10回多く利用することができます。また、これは親が安心して頼む事ができるように、ボランティアでは無く依頼された仕事として働く形となります。

続いて家庭外の環境としては、無料で未就学の子どもが遊べて預けることもできる施設が充実しています。



遊び場のイメージ（イオンモール水戸内原）

まず、水戸市のランドマークである市役所や市民会館、水戸芸術館、五軒町といったまちのにぎわいがあり多くの人が集まる市街地には3～5歳の子ども向けの無料の遊び場があります。そこには、滑り台やトランポリン、ボルダリング遊びができる複合遊具があり、役所の手続きや買い物の合間などのちょっとした時間に利用して子どもが体を動かして満足できる環境が整っています。

この遊び場はそれぞれの施設の敷地内に併設されているので、車で移動する必要が無く、用事と併せて気軽に子どもを遊ばせることができます。なお、施設の屋内にある場合には、汚れないように靴を脱いで遊ぶようになっています。

加えて、丸井ビルと京成百貨店のなかには大規模な支援センターがあります。ここは特に遊具が充実しており、室内公園のような施設になっています。

ここでは、遊び場が託児エリアと保護者同伴エリアに分かれています。託児エリアには、預けた子どもを見守ってくれる保育者が常駐しており、手足をうまく使わないと昇れない階段がついた滑り台や視覚や指先への刺激を与えるパネル遊具、カラフルな知育玩具などがあります。保護者同伴エリアは、大型の遊具が設置されています。家庭では買いたいけど高価で購入に悩むような海外ブランドの知育玩具もあるのでお試し遊びをすることもできます。



海外ブランドの知育玩具例 (Brio)



海外ブランドの知育玩具例 (naef)



海外ブランドの知育玩具例 (キュボロ)

更に、ハイハイや歩きたてのころにあたる2歳以下の子どもと、元気に走り回りはじめる3歳以上の年齢の子どもでエリア分けがされています。2歳以下エリアには、ハイハイしやすい低反発のプレイマットやつたい歩きがしやすいウレタンアスレチックがあります。3歳以上のエリアには、全身を使った運動ができるネット遊具や感覚を刺激するカラフル足つぼ、トランポリン、ボルダリング、おままごとセットがあります。

また、丸井ビルは駅から直結しているので子どもを連れて電車で遊びに来ることもできます。

こうした施設の他、急な用事等で子どもの面倒をみることができない親が気軽に利用できる一時保育サービスがあります。2人目以降の出産を控えていたり体調不良などで一時的に子どもをみることができない場合や、近くに頼れる親族がいない場合などのときに、1歳～就学前の子どもを突発的でも預けることができます。利用するときには事前に準備物を買そろえる等の面倒がなく、また、利用定員数も多く設定されているので、利用したい日の直前に申し込んでも預かってもらうことができます。

・市民の活動について

このまちで子育てしている市民は、こうした環境を活用して子育てをしています。

ヘルパーチケットを利用するときは、チケット制なのであらかじめ決められた曜日や時間でしか使えないということがなく、親が休息をとりたいときや手助けをして欲しいときに利用できます。

市街地の中の遊び場では、市役所の手続きやデパートや買い物に行くついでに、気軽に立ち寄って子どもを遊ばせることができます。

子どもたちは親の用事に付き合わされると、どうしても遊び足りず、体を動かしたくなります。そうした時、こうした遊び場では30分程度でも飽きずに遊ぶことが出来るため、親がそばで見守りをしている中で子どもたちは自由に走り回ったり飛び跳ねたりして遊んでいます。出かけた先のすぐそばに遊び場があることで、子どもも機嫌

を損ねることがないので、親も安心して子どもを連れて市役所や買い物に出かけることができます。

また、子どもの遊びが目的で出かけたいときには丸井ビルや京成百貨店の支援センターを利用しています。ここには大型遊具やさまざまな知育玩具があるので何時間でも思い切り遊ぶことができます。また、子どもの年齢によって遊び場のエリアが分かれていることで、小さい子どもと大きな子どもがぶつかる心配もありません。一方で、ここには託児もあることから、子どもを預けている間に親は買い物などの用事を済ませてくこともでき、託児エリアの保育者に気軽に育児の相談をすることもできます。

この施設を利用するときは、子どもが普段なかなか利用することのない路線バスや電車に乗る練習をしながら、丸井ビルの支援センターへ遊びに行くこともあります。

一時保育サービスは急に子どもを預けなければならないときに気軽に利用できるので、第2子以降の出産のときに上の子を預けたり、あるいは下の子どもを預けて上の子の発表会や運動会などの行事に参加することができます。出産や育児で大変なときに頼れる親族が近くに住んでいなくても、里帰りをせずに出産に臨むことができ、小さな子どもを連れて行くのが難しいときには預かってもらって出かけることができるので、安心して水戸市で子育てができています。

・まちの魅力とテーマとのつながりについて

このまちは、家庭内でも家庭外でも子育ての負担が少ないため、出産時や育児期に頼れる親族が身近にいない家庭でも、安心して子育てができます。

家庭内では、ヘルパーチケットや一時保育サービスがあることで、子育てをする親は、産前から産後、育児期も必要に応じてサポートを受けることができ、子育てに不安でドキドキすることはありません。

家庭外では、遊具が充実した支援センターや、出かけ先のついでに寄れる遊び場があるので、気軽に子どもと出かけられます。駅だけでなく商業

地域である市街地にも子どもが遊べる場所があるため、親にとっても子連れで出かけることのハードルが下がり、子育てしやすい環境になっています。

このように遊び場が充実していることで親子でお出かけがしやすく、また、親族の代わりに頼れる場所、人がこのまちにはあることによって、水戸市は安心して出産・子育てができ住みやすいまちと思う人々が増え、移住定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP27に記載します。

**【提言4】ハンディキャップがあっても大丈夫！
私たちの子→孫→その先もずっと、子育てしたい水戸市を目指して**



・まちの環境について

私が理想とするこのまちには、様々な年齢の子どもや障害を持った子どもも体を使って全力で遊べる無料の屋外の遊び場が充実しています。この遊び場は市内に点在しており、次の2つの例のようにそれぞれの場所を活かした特色ある遊び場になっています。

【遊び場①】

楮川ダムにはインクルーシブ公園があります。そこには、雲梯やクライミング、高さのある滑り台のほかに、車いすのまま登れるスロープや着地も安心な低く緩やかな滑り台がついたインクルーシブ遊具があります。ほかにも、音が鳴ったり○×ゲームが楽しめるパネル遊具を組み合わせた簡単な迷路や回転遊具もあります。



インクルーシブ遊具のイメージ①



インクルーシブ遊具のイメージ②

これらは車いすのままでも入れるように通路幅が広くとられていたり、車いすのまま遊具に乗ることができます。ブランコは、ネット上に寝転んで乗ることができるものやハーネス付きのもの、かご型のものがあり、年齢・障がい・医療ケアの有無にかかわらず利用することができます。

これらの遊具は、みとちゃんや梅の花・納豆のように水戸市の象徴となるようなモチーフでカラフルに装飾されているので、視覚的にも楽しめたり、地域に親しみを持つことができます。

また、遊具エリアは、年齢関係なく子どもたちが同じ遊具と一緒に遊べるエリアと、低年齢の子ども向けの複合遊具があるエリアの両方があるので、様々なニーズに対応できます。

この公園には自然でできた芝生の小さな山があるので、健常児も障がい児もゴロゴロと寝転が

って遊ぶことができます。春には八重桜が咲き、冬の晴れた日にはダム周りから遠くの山を眺めることもできます。

また、ダム周りは路面が整備されているので、ベビーカーや車いすでも移動しやすくなっています。広い駐車場もあり、ベビーカーや車いすでも乗り降りしやすいように車1台分のスペースが広くとられています。



楮川ダムにある芝生広場



楮川ダムの芝生広場

【遊び場②】

渡里湧水群公園には、豊かな自然を活用した遊び場があります。

ここには野木山緑地付近から小川が流れており、橋が渡されています。この橋は幅が広く段差もないので、橋の先の休憩所へ車いすやベビーカーのまま入ることができます。休憩所も段差がないよう舗装されています。



野木山緑地付近の小川。
車いすでも通れるように幅
広で段差のない橋にする。

ホタル池や親水池には、カワナ・エビ・サワガニ・メダカ・ドジョウがおり、初夏の夜にはホタルを見することもできます。緑も多いので、たくさんの野鳥や虫も生息しています。竹林側へ下りていく遊歩道は自然保護をしつつも歩きやすいように竹チップやウッドチップが敷き詰められています。

広場には自然の風景になじむ木材でできたアスレチック遊具があり、丸太の平均台を歩いたりネットをつかんで山を登り降りする遊びができるほか、泥遊びができるエリアもあります。



渡里湧水群公園の広場



木造遊具のイメージ

この公園は、駐車場から車を降りてすぐ遊び場へアクセスできるようになっています。

以上の2つの遊び場には共通して、無料駐車場のほか、屋根付き休憩所（あずまや）、おむつ交換台や授乳室、車いすやベビーカーのままでも入れる「みんなのトイレ」、着替えができるスペース、手足を洗える場所、キッチンカーなどの軽食が食べられるお店、自動販売機が完備されています。

・市民の活動について

このまちの子どもたちは、健常児も障がい児も医療ケア児も一緒になって遊んでいます。

自然の中の遊び場では、森林浴や芝生の山でゴロゴロと寝転んだり、虫を捕まえたり魚を観察して遊んでいます。暖かい日は小川で水遊びもしています。家ではなかなか出来ない泥遊びも、ここでは思い切り楽しめます。

自然豊かな中で遊び、普段家の周りで見ることの出来ない生き物や植物の観察をすることで、どんな特徴があるのか、どんな所に生息しているのかなど、遊びを通じて学んでいきます。春にはたくさんの桜が咲き、夏には青々と茂った木々に止まった蝉の観察をし、秋には周囲の山の紅葉を楽しみ、冬には空気が澄むことでいつも見えていない遠くの山々を見ることが出来るなど、四季の変化を遊びながら感じる事が出来ます。

目の前にある大きなダムが存在が気になる子どもも多く、ダムはなぜあるのか？どんな役割をするのか？を自分で調べたり、大人に聞いたりする子どももいます。

また、渡里湧水群公園では、湧水群を活かす会の会員が定期的に集まり、子どもたちに公園内をガイドしたり落ち葉で焼き芋をするイベントを開いています。地域住民と子どもが交流することで地域による子育てにもつながっています

遊具では、クライミングや雲梯で手足を使ったり体を動かして元気いっぱい遊んでいます。高さの異なる滑り台やさまざまなタイプのブランコがあるので、低年齢から高学年の子どもまで一緒に遊んでいます。低年齢向けの遊具エリアもすぐ

近くにあるので、大きな子どもと一緒に遊ぶのが心配な子どもはエリアを分けて遊ぶこともできます。障がいのある子供たちも○×ゲームや音の鳴るパネル遊具を利用したり、車いすのまま利用できる遊具で健常児とともに遊んでいます。普段から障がい児や医療ケア児も健常児に混ざって遊んでいるので、子どもたちは障がい児や医療ケア児に出会っても驚いたり、どうしたら良いかとまどったりせず、自然に声かけをし、時にサポートして一緒に遊んでいます。

また、施設を訪れた親たちはInstagramなどのSNSを活用してこの遊び場をオスメスポットとして広く周知（いいね等）しています。そのため、これらの施設の情報は親たちの間で広く共有・拡散され、子育てしている市民にとっても人気があります。

こうしてこのまちで子育てしている市民は、市外の遊び場へ出かける必要がなく、週末は市内で遊んで過ごしています。

市内に複数の遊び場があるので、1カ所に人が密集し過ぎることがなく、子どもたちはスペースにゆとりをもって遊ぶことができています。

加えて、市外で暮らす人たちは、SNSに水戸で子どもが遊べるオスメの場所がたくさん紹介されているのを見て、水戸へ遊びに来ています。障がい児や医療ケア児をもつ親同士のネットワークでも水戸には障がい児や医療ケア児が遊べる場所が充実していることが情報共有され、多くの家族が水戸に遊びに来ています。

・まちの魅力とテーマとのつながりについて

このまちはワクワクドキドキする遊び場がたくさんある楽しいまちです。どんな子どももそこに行けば楽しく遊ぶことができます。

自然の中で遊ぶことで、生き物の生態や命について学んだり、風や気温、川の水の温度を体感することによって季節を感じる感性が養われています。義務教育で学ぶことを未就学期のうちから遊びを通して学んでいます。また、大型遊具や○×ゲームなどで遊ぶことで、子どもたちには運動能力や考える力が身につきます。

更に、異なる年齢の子どもや障がい児・医療ケア児が同じ遊具で遊ぶことで、多様な交流が生まれています。低年齢のうちから障がい児と共に遊ぶことで「世の中にはいろいろなお友達がいる」ということを自然と認識できるようになります。そのため、障がい者への偏見や差別の意識を持たず、また、困っているような場面に遭遇した際に自然と他者を手助けできる優しさを身につけることができます。障がい児にとっても、戸外で見知らぬ子どもたちと関わり、時に自分の思い通りにならない状況を経験することで、成長につながっています。

子育てしている市民にとっても、子どもが楽しく過ごせるだけでなく、障がい者を受け入れているまちとして水戸に好印象を持ち、このまちに愛着が湧いています。

更には、市内だけでなく市外からもたくさんの親子が遊びに来ていることから、多くの人が水戸はいつでも楽しく遊べるまちと感じ、「このまちに住みたい」と思うきっかけにもなります。

子どもたちにとってはこのまちで過ごした時間が楽しい思い出としてずっと残り、自分のまちに愛着が湧きます。そのため、子どもたちは将来、楽しいこのまちで暮らしたい、大好きなまちに貢献したいと考えるようになり、大人になったときや家庭をもったとき、「自分もこのまちで子育てがしたい」と水戸に住むことを選んでいます。

このように、水戸市はみんなが楽しく過ごせるまちであり、市民が自分のまちに愛着をもつことで移住定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP28に記載します。

【提言 5】どこでも仕事ができる時代なら水戸でいい、水戸がいい。

3.5 次産業の街

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

このまちは、まち全体がフリーアドレスワークスペースとなっており、ネットインフラに力を入れている都市であることから、どこでも仕事ができる環境が整いつつあるまちである。

具体的には、市民会館をはじめとした〇〇や〇〇などの屋内の公共スペースにはwifi、電源が完備されているので、施設内のどこでもインターネットにつながり仕事ができる。また、千波湖や偕楽園といった屋外の公園ではwifiがつながる事に加え、一部ワークスペースが整備されているため、屋外にいらがらでもPCやスマホを使って作業をすることができる。

加えて、そうした仕事を支援するために、金融資本を集め、投資する拠点としての銀行等の金融機関があるとともに、その支援がより強力に行えるように行政が金融機関と連携をしている。

一方、市民がSNSやeスポーツ等をしやすいように、高速のインターネット回線が自由に使用できるマンションやアパートが数多く立地している。

そして、こうしたテクノロジーのメリットを市民が最大限有効活用できるように、学校や生涯学

習施設がIT関係を学ぶ場としても位置づけられている。

・市民の活動について

このまちの市民はテクノロジーのメリットを最大限有効活用しながら生活している。

仕事をする上では、〇〇な働き方・ライフスタイルを送っている。(芝生の上でごろ寝しながらPCで作業)(ベンチに横たわってスマホで動画撮影や編集)(自宅が職場になる等)従来の枠にはまらない仕事の仕方をしている。

加えて、金融機関や行政等はこのまちで起業する若者(25歳以下)に対して〇〇という条件で〇〇の支援をしている。令和の虎のようなビジネスプランコンテストも開催されており、その審査員には企業家やクラウドファンディング企業が参加している。特に優秀なプランには金融機関や行政等から更に〇〇の支援が行われている。これにより、水戸で起業する若者がますます増えている。

さらに、こうした環境を土台として、新たな仕事も生まれている。

市内にいるナノ・マイクロインフルエンサーは、新たなインフルエンサーを水戸に呼び込むため、インフルエンサーを対象にまちの魅力(インフル

エンサーが活動しやすいような環境や各種支援制度があること等）の情報を発信している。これにより市外から多くのインフルエンサーが転入し、市内で活動している。

また、こうしたインフルエンサーの活動を盛り上げるため、投稿された動画について魅力発信動画コンテストが開催されている。こうしたコンテストを契機として、市内のインフルエンサーは知名度やフォロワー数が上昇していくように、インフルエンサーとして成り上がっていくことが出来る。

他にも、eスポーツの推奨にも力を入れており、市内にはeスポーツのプロチームがたくさんある。

教育面では、25歳以下の若年層や子どもを対象にしたプログラミング教室や動画・Webなどのクリエイティブ教室、SNSインフルエンサー教室が盛んに開催されていることから、小中学生もネットリテラシーの水準が全国的にも高い。小中学生のうちからプログラミングやSNSについて将来ビジネスに昇華できる使い方を教わっているのも、〇〇をしたり〇〇ができる。なお、講師は〇〇の企業や〇〇の会社が務めている。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちは、今後の経済を支える情報通信分野に大きく注力する都市として全国的にも知名度が高く、3.5次産業の仕事をしている人がますます増えつつあるまちである。

ネットインフラが整備され、場所を選ばずに自由に快適に仕事ができるので、そういった働き方をできる人がどんどん増えている。

企業による若年起業家の応援・支援が充実しているのも、このまちで起業する25歳以下の若者の数が全国一になっている。若年層による先進的かつエネルギー溢れる経済活動やITインフラの水準が高いことにより、全国から若年層がこのまちに移住してきている。

さらには市内に住むインフルエンサーがまた新しいインフルエンサーをまちに呼び込むサイクルが確立していることにより、このまちはナ

ノ・マイクロインフルエンサーの聖地としても全国的に有名になっている。インフルエンサーによって定住者の充実度がメディアによって市外・県外に情報発信されることで、ますますこのまちへの移住者が増え続けている。

このまちを実現するための課題と取組をP29に記載します。

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

このまちには、人々が安心して暮らし、未来に希望が持てるように、社会的なインフラ等が整備され、子育てしやすい環境となっている。

住環境や生活安全面では、各種防災対策が行われ、災害に強い。具体的には、住宅の耐震補強、地盤の強化、堤防の整備、雨水排水対策のほか、ハザードマップで自宅付近の危険度がすぐわかるようになっている。まちなかにも洪水警戒区域や避難経路の標識がわかりやすく掲示されている。交通の面でも、道幅が狭い道路ではスクールゾーンや速度規制がされていたり、歩行者や自転車が通行しやすいように歩道が平らに整備されている。

日常生活面では、スーパーやドラッグストアなどの日常の買い物施設、市役所の出張所や子育て支援施設、大きなホールがある会館等の公共施設、眼科や耳鼻科などのかかりつけ医や夜間診療のできる病院が市内全域に充実している。

教育面では、義務教育の学校はもちろんのこと、県立、私立ともに高等学校が水戸市内に集中して立地している。高校の数も十分にあり、学科の種類や偏差値も幅広い。スポーツやダンスなどの特定の分野に力を入れている学校もある。

余暇を楽しむ場所としては、自然豊かな千波湖や偕楽園など大小さまざまな公園がある。今後開業が予定される Park-PFI 事業では、水戸のシンボルになる建物や子供の遊び場の施設の建設が期待されている。また、そういった場所では桜や梅、紅葉、花火といった四季折々のイベントが開かれているが、これらの情報をプッシュ型で通知するスマートフォンのアプリがある。

・市民の活動について

このまちに住む人々は、市内全域で防災対策が施されていることから、自分が住みたいところを自由に選んで住むことが出来る。そのため、新しく水戸市に転居してくる人にとっては場所選定の負担が少ない。そして、万一の際には防災の情報を常に HP や SNS で確認でき、自分が住む地域の危険度を把握しているため、災害時には避難経路の掲示によって安全な場所へすぐに逃げる事ができる。

通勤・通学の際には、市内の歩道は自転車や歩行者も通行しやすいように整備されているので、車を使わず歩きや自転車で行くことができる。

市内全域に生活雑貨のお店や行政の施設、かかりつけ医の病院があるので、このまちに住む人々は必要な時に身近な場所ですぐ利用ができてい

る。特に医療機関は専門の診療科が十分な数があるので、長時間待つことなく受診できる。

このまちの子どもは、進学先を市内にある学校の中から幅広く選択でき、市外に出ることなく小・中・高までを完結できている。また、特色ある高校がたくさんあることから、子供が自分の興味関心に応じた学校を選ぶことが出来るため、市外から通いにくる子どもも多い。

さらに、学校以外の場所で子育て世帯が集まるコミュニティとして、ダンスやスケボー、プログラミングやクリエイター育成などの新ジャンルの習い事ができる教室が市内にたくさんある。大人向けには千波湖やアダストリア水戸でヨガやマラソンのサークルがある。スポーツ教室や習い事、サークル活動も市内に種類豊富にあることから、やりたいことを不自由なく選ぶことができ、そこで学校や職場以外の人と新しいコミュニティを形成している。

余暇の時間には、千波湖や偕楽園周辺に出かけて家族で買い物や散歩したり、公園で遊んでいる。スマートフォンのアプリからはまちの情報がプッシュ型で届くので、市内のイベントに参加したり、同じ趣味のコミュニティに参加して過ごしている。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちの人々は、災害の不安がなく、生活面も利便性が高いので安心して暮らすことができる。まちなかの歩道は歩行者も自転車も安心して通行ができ、狭い道では通行人の安全が守られている。

日用品を買えるお店や公共施設、町医者など社会的インフラが市内全域に充実しているので、必要な時にすぐ利用することができる。

特色ある高校も多くあるので、市内外の子どもが進学先にこのまちを選ぶことによって、教育水準が高い。

新しいジャンルの習い事の教室も市内でたくさん開かれており、選択肢に不自由することがない。それと同時に、子どもたちにとって習い事は、どこでも新しい人間関係を作れる力を身につけ

る経験の場になっている。

休日は、アプリから送られてくる通知をもとに自然豊かな公園へ出かけたり、季節を感じられるイベントに参加することが簡単にできるため、余暇を十分に楽しんでいる。特に千波湖や季節のイベントは全国的な知名度もあり、市外からもたくさんの人が集まり、人々の憩いの場になっている。

これらのことから、このまちで暮らせば日々の生活や子育てで生じる不安がすぐに解消され、茨城県内で一番安心して子育てできるので、水戸で暮らす未来に希望が持つことができ、水戸市への移住・定住が促進している。特に、関東在住で、どこに住もうか迷っている人が、つくば市や守谷市ではなく水戸市を選んでいる。

このまちを実現するための課題と取組を P 30 に記載します。

【第2部】

理想のまちを実現するための課題と取組

第2部の見方

第2部は、第1部で描いた理想のまちの姿を実現するための働きかけを、以下のようなロジックに基づき記載しています。

①：第1部で描いた、私が理想とする水戸市の姿の要旨を記載しています



②：①の中から実現したい魅力を選び、目標と定めています



③：②の目標を実現するに当たっての課題を記載しています



④：③の課題を解決するための行政の取組を記載しています

【提言 1】「社会的養護をうけ、子どもが最善の利益を得られるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちでは、子どもが家庭的な環境で生活できることを重視している。そのため各種里親の中でも専門里親が多くおり、対応が困難な子どもであっても里親のもとで家庭養護を受けることができる。
- ・里親は社会的養護のプロフェッショナルとしての高い意識を持って家庭養護に取り組んでいる。里子は里親の家庭養護のもと人としての自然な生活の仕方を経験しながら周囲の人々との関係性を構築し、ひとへの愛着がもてるように成長している。
- ・このまちでは、血縁のない関係であったとしても親と子という関係性を経験することで愛着形成がなされ、里子は安心感や他者との信頼感、将来への希望を持って成長することができている。このように人と人の温かい絆がまち全体にあふれていて、そのことがまちの魅力になり、水戸市への移住定住が促進されている。

このまちの一つ目の魅力は「里子がずっと家にいられる安心」であり、ここではこれを1個目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

里子が施設から家庭養護にすぐ移れるようにするため、里親志願者数を増やす。

課題の補足…

次ページ図1から、里親の登録数を増やすことで、どのような里子であっても対応できる（相性のいい）里親がいる状況をつくることが重要になる。

しかし、里親の質は確保しなければならないため、登録制度は現行のままとした上で、里親志願者数を増やすことにより質の高い多様な里親の増加を図る。

なお、資料1のとおり、潜在的な里親候補世帯数は100万世帯と言われている。

【課題解決への取組】

里親志願者数を増やすため、現行の手当額に加えて、家庭養護を行う里親に以下の条件で里親手当を支給する。

【支給額】

- ・里子1人につき：月額10万円
- ・専門里親による養育が必要な里子の場合1人につき：月額15万円

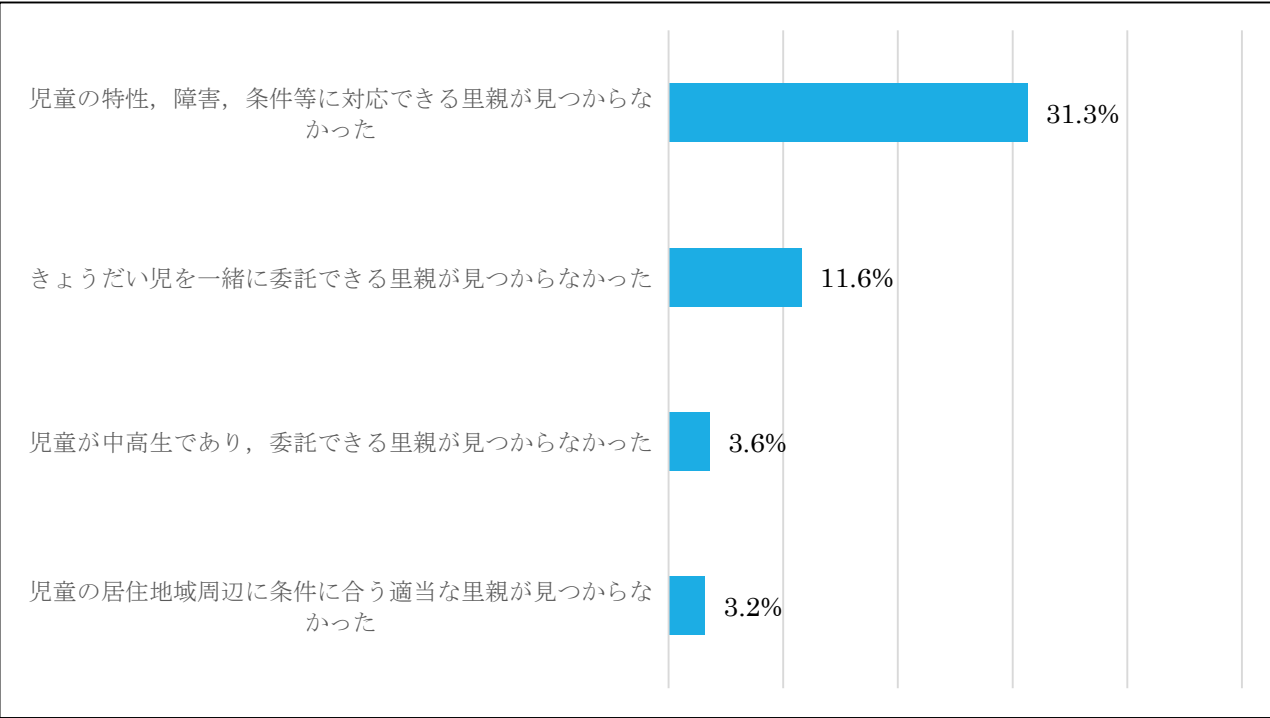
【支給条件】

- ・1年に2回以上、社会的養護にかかる研修会に出席していること
- ・里親会に入会し、里親同士のコミュニティに属し活動していること
- ・専門機関により、不適切な養育を行ったと判断されていないこと

（参考）

現時点で支給されている里親手当は、里子1人あたり養育里親では約9万、専門里親では約14万であり、生活費や学費等は別途支給される。

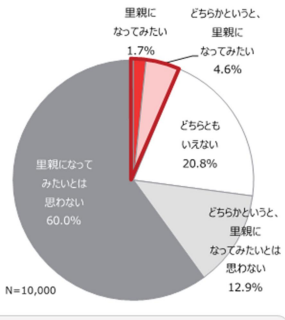
図1 委託が成立しない原因のうち、里親に起因する問題（総務省行政評価局, 2024）



資料1 「里親」に関する意識・実態調査報告書（日本財団）



※推計元は、平成27年国勢調査のデータを用いた
※20代～60代の男女総人口（およそ8000万人）で算出



＜コラム1＞ 里親意向のある世帯数



500万人！でも里親になるにも条件があるようだし、
“実際に里親になることができる世帯数”に換算すると、どのくらいなのでしょう？

今回の推計では“里親候補”として考えられる世帯を、
以下3つの条件と仮定してみましょう。

- ① 30代～60代
- ② 夫婦のみ、もしくは夫婦と子どものみ世帯
- ③ 本人/同居人ともに生活保護を受けていない

上記3つの条件に該当する世帯をおよそ1,780万世帯としたときに、
里親意向をもつ世帯数を推計すると、およそ**100万世帯**となります。



約100万世帯！
現在、施設で生活している子どもは約3万人ですから、
里親を求めている子どもたちの多くが家庭で生活できる可能性がありそうですね！

※里親制度上は年齢要件はなく、単身者も可能であり、欠格事由は児童虐待等の犯罪歴がない等も含む
※事前調査回答者のうち、本調査で“里親候補”と仮定した上記①～③条件合致者における里親意向がある人は5.3%
※推計元は、平成27年国勢調査、および国立社会保障・人口問題研究所のデータを用いた
※30代～60代の「夫婦のみの世帯数」および「夫婦と子どものみ世帯数」から「生活保護世帯数」を除いた世帯数
（およそ1,780万世帯）で算出

このまちの二つ目の魅力は「多くの里子が人に愛着を持つことができるまち」であり、ここではこれを2個目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

里子が質の高い家庭養護を継続して受けるため、里親の心身の健康を保つ。

課題の補足…

多くの里親は、自身のボランティアに基づき里親としての活動をしている。そのため、里子の問題行動や里子との関係に何らかの問題が生じて、自分たちで解決しなければいけないという考えのもと、家庭という閉鎖的な環境の中で対処を試みるもうまくいかず、心身共に疲労し不調となってしまうケースがみられる。

里子が質の高い家庭養護を継続して受けるため、里親のモチベーションを保つ。

課題の補足…

里子が里親家庭に委託されたあとの生活（家庭養護内）での問題によって、里子が里親家庭から施設へ戻される措置変更、いわゆる不調が生じている。野口ら（2019）の調査によると不調を経験したことがある里親は13.2%にのぼり、不調の原因として最も多かったものは障害児や被虐待児などのケアに対応できないという結果が示された。別の報告では、不調に伴う里子の要因について、発達障がいや知的な低さ等が指摘されるとともに、問題行動、非行、暴力、虚言などが発生していることが指摘されている（引土ら、2019）。

こうした里子の実態に日々向き合いながら適切に里子を育てるには、里親自身が、高いモチベーションを持ち続けることが重要である。

【課題解決への取組】

里親に対して、「レスパイトは恥ずべきことではない」、「レスパイトを効果的にとることが里親の心身の健康に繋がる」ことを周知する。

なお、周知にあたっては、県等の関係機関と協力し、里親の研修時等の里親が集まる機会を活用して実施することが効果的と考えられる。

一定期間継続して里子を養育している里親を表彰すると共に、ランク付けを行う。

これにより里親が頑張って養育していることが周囲（※）に認められ、里親の自信を高め、モチベーションを維持し、プロ意識ができることが期待される。

併せて、虐待やマルトリートメント（不適切な育児・保育）の防止も期待される。

※フォーマル（行政や公的な組織）とインフォーマル（友人や家族・親族）のこと。

【表彰内容】

表彰時期（養育期間）	ランク
2,500 日	アウトスタンディング
2,000 日	ブリリアント
1,500 日	エクセレント
1,000 日	ホープフル

このまちの三つ目の魅力は「多くの里子が地域に愛着を持つことができるまち」であり、ここではこれを3個目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

里子が社会的養護を受けてまちから大切にされている感覚を持つため、行政が里子にプレゼントを贈る。

課題の補足…

里子がまちから大切にされていると思うためには、行政からのアプローチがわかりやすい形であるため有効と考えられる。

【課題解決への取組】

特別なイベントの時期に、水戸市から里子にプレゼントを贈る。

なお、プレゼントの差出人名は全てあえて「水戸市」とする（みとちゃん等ではない）ことで違和感があり面白くし、子どもの印象にも残るようにする。

【プレゼント例1：クリスマス】

同年代の子をもつ市役所職員が子どもに用意したものと同じものを送る。もし希望に沿わないものだったとしても、それはそれで良い思い出になると思われる。

配付する際は、水戸市役所とわかる車で、市役所の職員（サントのコスプレではなく、水戸市役所職員とわかるような服装）が渡すことで、強い印象付けを狙う。

【プレゼント例2：お年玉】

お年玉の醍醐味はポチ袋に入った現金であるため、現金をポチ袋に入れたお年玉を配布する。金額は年齢に関わらず千円とする。人ではない存在である水戸市からもらった、という記憶が大事だと思います。

【プレゼント例3：誕生日】

お誕生日プレゼントは、それぞれお誕生日のタイミングが異なることから、モノではなく体験や思い出を提供する。

そのため、アクアポルタ食べ放題（お友達3人まで同伴可）とする。まちの象徴である市役所のレストランで好き放題させてもらえるということは、まちに甘やかしてもらった思い出になると考えられる。

【提言2】「Pre-primary から始まる学修支援」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちでは、ギフテッドなどの領域依存的な才能を持つ子どもがその才能を伸ばせるように、飛び級や専門クラス、オンライン学習（以下、特別教室）といった教育環境が整っています。
- ・子どもたちは就学前の早い段階から複数の大人の目によって観察され、その才能に早く気づいてもらえます。そして、領域依存的な才能を持つ子どもかもしれないと気づいたときに相談できるチューターがいるので、子どもや保護者は望む教育環境を選ぶことができます。それにより子どもたちは楽しみながら学習し才能を伸ばしています。
- ・このまちに住む領域依存的な才能を持つ子どもは、まち全体のサポートによって自信に満ちた大人に成長し、功績を残しています。それがこのまちの魅力となり、特に子どもの教育に関心ある家庭がどんどん水戸市に転入してくるので、移住定住が促進されています。

このまちの魅力は「子どもの領域依存的な才能を伸長すること」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

才能ある子どもが特別教育を受けられるようにするため、国に法改正を求める。

補足：飛び級とは実学年・等級よりも上の学年・等級または上の学校に移って学習すること。現在の法律では高校以上からでないと飛び級ができない。

才能ある子どもが特別教育を受けられるようにするため、子どもと特別教育を結びつける制度（システム）を作る。

補足：多くの公的な支援は、不得手なことへの対策のために施されます。そのため、特異な才能をもつ子どもの将来は、保護者の努力に依存することになってしまいます。しかし行政からの公的なサポートにより、保護者に過度な負担やプレッシャーがかからずに、子どもの才能を伸ばすことができます。

【課題解決への取組】

本提言の特別教室を形にするには、まずは法改正が重要になるため、要望書を作成し国に提出する。要望書の要旨は以下とおり。

- ・未就学児が当該児童の学力に応じて小学校への早期入学ができるようにすること
- ・義務教育期間にも飛び級制度が設けられること
- ・高IQ児を対象としたホームスクーリングが整備されること

以下のように、子どもと特別教室を繋ぐ制度（システム）をつくる。

- 1) 市が、領域依存的な才能を持つ子どもを支援したい者（機関）のリストを作成する。
- 2) 領域依存的な才能をもっている可能性がある子どもについて、関係者が保護者の許可を得て、あるいはその保護者が市へ情報提供する。
- 3) 市が、提供された情報に基づき、専門家の助言のもと特異な才能を持つ子どものリストを作成する。
- 4) 市が、リストにあがった子どもや家族とコミュニケーションをとり、才能を伸長する重要性について伝える。
- 5) 市が、子どもや家族の希望に応じてその分野の専門家を仲介し、子どもの才能が伸ばされるように支援を行う。
- 6) 子どもの状況や専門クラスについて、市が定期的に観察を行う。

才能ある子どもが特別教育を受けられるようにするため、領域依存的な才能を持つ子どもに対する大人の理解を深める。 補足：特異な才能をもつ子どもは、全般的な分野で高い能力を発揮するタイプと、得意な才能と発達障害を併せ持つタイプに分かれます。発達障害を併せ持つタイプは、その才能が発見されにくく発達障害のみに焦点をあてられてしまいます。また、全般的な分野で高い能力を発揮するタイプであっても、同年齢の子どもと調和するために才能を隠す子どもも少なくないため、発見が難しくなっています。 こうした特徴をもつ子どもを発見するためには、領域依存的な才能に着目できる大人の理解が重要となります。	保育士や学童クラブの職員、各種教室の開講者を対象に、以下のことを実施する。 ・子どもの観察項目のひとつに、領域依存的な才能の有無を追加する。 ・領域依存的な才能の理解を深める研修を行う。 保育士や学童クラブの職員には、全般的な領域依存的な才能とは何かについて研修し、専門クラスの開講者には、発達障害の概要・保護者対応の基本・領域依存的な才能について研修する。 保護者向けに、以下のように領域依存的な才能についての情報発信を行う。 ・リーフレットや SNS を用いて、“高 IQ” や “ギフテッド” という単語の認知度を高める。 ・自分の子どもが他の子どもと違う気がする、と悩んでいる保護者に、ギフテッドかもしれないという気づきを促す。
才能ある子どもが特別教育を受けられるようにするため、領域依存的な才能をもつ子どもに気づく場をつくる。 補足：通常の幼児教育の場では特に秀でた子どもを発見するのは難しい。	就学前の子どもを対象に、教室を開催する。内容は以下のとおり。 ・無償/有償は問わない。 ・教える内容は、入学テスト対策教室、音楽や絵画などの芸術教室、ダンスや球技などのスポーツ教室、プログラミングや機械工学の教室など。 ・教室の開催者は、その分野を得意とする人とする。教室の開催にあたっては、市が運営に関する事務処理を行い、講師は教えることに専念する。 ・教室の開催者は、参加した子どもたちのなかで特に秀でている子どもがいないかを観察する。

【提言3】近くに支援者がいない家庭でも安心子育てができる水戸まち

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、出産時や育児期に近くに親族などの支援者がいなくても、安心して子育てできる環境が整っています。
 - ・祖父母の役代わりをしてくれるヘルパーチケットや一時保育サービスが充実しているので、保護者は家事や育児の休息をとりたいときや、子どもを預けて出かけたいときに気軽に利用しています。
- また、市民会館や芸術館、五軒町などの市街地や市役所には無料の子どもの遊び場があり、買い物や用事のついでに立ち寄って遊ばせることができます。子どもの遊びが目的で出かけたいときは丸井ビルや京成百貨店の大規模な支援センターへ行き、大型遊具や知育玩具で思い切り遊ばせることができます。
- ・これらのことから、このまちでは近くに支援者がいない子育て世帯でも「子育て」「日常の雑務」「仕事」を同時にこなすことの負担が減り安心して子育てをすることができます。このまちで出産・子育てをしたいと思う人が増え、移住定住が促進されています。

このまちの魅力の一つは「親は安心して、子どもは楽しく暮らせるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

駅の北口の中心部に子どもが気軽に遊べる所がない問題。
産前産後、育児のサポートを頼れる人をつくる方法。
一時保育に気軽に預けられるように。

【課題解決への取組】

旧県庁、京成百貨店、芸術館などのランドマーク付近に、遊具の設置。
市役所、駅構内にキッズスペースの確保。
身近に頼れる人がいない人向けのヘルパーチケットの配布。

【提言 4】ハンディキャップがあっても大丈夫！
私たちの子→孫→その先もずっと、子育てしたい水戸市を目指して

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちには、場所の特色を活かした無料の屋外公園があります。楮川ダムには年齢が異なったり障がいがあっても一緒に遊べるインクルーシブ公園、渡里湧水群公園には豊かな自然を活用した遊び場があります。
- ・子どもたちは普段から障がい児や医療ケア児と遊びを通して関わることで、差別や偏見を持たずに成長しています。また、市内に遊び場が複数あることで、このまちで子育てしている市民は市外へ出かけずに済み、市内で過ごしています。一方で市外からは多くの家族が遊びに来ています。
- ・このまちは、子どもにとって楽しい思い出がある場所になるほか、障害者を受け入れているまちとしても人々から好印象を持たれています。多くの人がこのまちに愛着を持ち、楽しいこのまちに住みたいと思うことにより移住定住が促進されています。



このまちの魅力は「アドベンチャーでいっぱい！ワクワク・ドキドキ子どもたちみんなが楽しくて満足できる水戸市♪」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

どんな子どもでも多様な遊びができる場をつくるため、以下の問題を解消する。

- ・大規模なインクルーシブ公園をつくる気運が低い。
- ・バリアフリー化された自然豊かな公園建設の気運が低い。

補足：水戸市内に、インクルーシブ公園がない。現状の公園では障がい児や医療ケア児が健常児と同じ環境で遊ぶことができない。大型遊具のある屋外公園が少年の森公園しかない。また、障がい児や医療ケア児が自然にふれられる公園がない。今の水戸市にはワクワク・ドキドキできる遊び場がない。

【課題解決への取組】

どんな子どもでもワクワク・ドキドキできるためには、大規模なインクルーシブ公園やバリアフリー化された自然豊かな公園が重要と考えているが、この点は必ずしも市民間で意見が共有されているわけではない。そこで、市内の保育園・幼稚園・小学校・特別支援学校に通う子どもや保護者を対象にタウンミーティングを開き、意見の統合を図る。タウンミーティングの議題は以下の通り。

- ・「大規模なインクルーシブ公園の整備についてどのように考えますか？」
- ・「バリアフリー化された自然豊かな公園の整備についてどのように考えますか？」
- ・「ワクワク・ドキドキできる遊び場とは？」

【提言 5】 どこでも仕事ができる時代なら水戸でいい、水戸がいい。3.5 次産業の街

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・ まちの環境の要旨を記入
- ・ 市民の活動の要旨を記入
- ・ まちの魅力と移住・定住の促進の要旨を記入

このまちの魅力の一つは「日本一 IT インフラが整備、または利用できる環境があるまち」「動画や各種 web サービスを学ぶ機会が都市に溢れ、若年起業家を応援する制度や仕組みが多くあるまち」「ナノ・マイクロインフルエンサーが多く移住定住し、水戸のハード・ソフト両面の魅力発信が日々行われ活気があるまち」であり、ここではこれを 1 個目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

IT インフラの整備、活動しやすい拠点の充実、若年層応援の制度作り、応援団体の誘客、web・SNS サービスの学びの場創出

【課題解決への取組】

- ・ 市内の IT インフラ整備予算の創出・拡充。
- ・ 3.5 次産業の都市を掲げ、各種団体、企業の誘客。
- ・ 市内マンション、アパートの一室（ネット環境無料）を下記条件を元に無償もしくは減免提供。さらに状況に応じて PC・スマホなどのデバイス提供。
 - 1 万人以下のフォロワー数（減免）
 - 1 万人以上、5 万人以上（減免割合増）
 - 10 万人以上（無償提供）
- ・ 月 4 回水戸市についての投稿必須などのルール作り。
- ・ インフルエンサー向け水戸の魅力発信動画コンテストの開催。
- ・ 若年層向けのビジネスプランコンテストを開催、審査員の企業家・CF 企業誘致。

【提言 6】 自然環境あふれるまちで利便性が良くて優れた教育が受けられるまち

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、災害に強く、生活安全面や日常生活面、教育面、余暇を楽しむ環境などが整備されており、安心して生活し子育てがしやすいまちである。
- ・生活に必要なお店やかかりつけ医の病院が市内中心部から郊外まで十分にあるので、人々は自分が住みたいと思ったところに住んでいる。また、高校も学科の種類や偏差値が幅広くあるので、子どもたちは市内の学校から進学先を選択し小・中・高まで進学している。大人も子どもも学校や職場以外のコミュニティでスポーツやサークル活動を楽しんだり、アプリから届く市内のイベント情報を見て参加するなどして余暇を過ごしている。
- ・災害の不安がなく生活面の利便性が高いこのまちは、市内のどこに住んでいても安心して暮らすことができ、水戸で暮らす未来に希望を持つことができる。それにより、水戸市は県内一のまちとして人々に選ばれ、移住定住が促進している。

このまちの魅力は「余暇を楽しめるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

まちのイベントの情報を手に入れるため、情報入手の負担を少なくする。

【課題解決への取組】

以下のようなイベント情報アプリをつくる。これを「みとっこ子育て応援アプリ」にリンクを貼り、子育て世代が情報にアクセスしやすくする。

「〇〇〇アプリ」

このアプリで重視するのは、次の通り。

- ・イベントの通知がプッシュ型で来ること。
- ・イベント検索時のクリック（タップ）数が少ないこと。

資料

市政モニター活動内容

令和6年4月25日（木） **市政モニター委嘱状交付式及び市政モニター事業説明会**

【委嘱状交付式】

- ・委嘱状交付
- ・市長あいさつ

【事業説明会】

- ・水戸市からの説明
 - 「市政モニター及び今後の流れ等について」 市民相談室
 - 「水戸市の概要について」 政策企画課
- ・質疑応答等

令和6年5月24日（金） **第1回市政モニター提言書作成会議**

【会議内容】

- ・水戸市からの説明
 - 「市政モニター提言書作成会議について」 市民相談室
 - 「水戸市の移住や定住の促進に向けたまちづくりについて」 政策企画課
 - 「市政モニター提言書作成マニュアルについて」 市民相談室

令和6年7月11日（木） **第2回市政モニター提言書作成会議**

【会議内容】

- ・水戸市からの説明
 - 「市政モニター会議について」 市民相談室
- ・意見交換等
 - 「水戸市の移住や定住の促進に向けたまちづくりについて」

令和6年9月17日（火） **第3回市政モニター提言書作成会議**

【会議内容】

- ・意見交換等
 - 「水戸市の移住や定住の促進に向けたまちづくりについて」

令和6年10月29日（火） **第4回市政モニター提言書作成会議**

【会議内容】

- ・意見交換等
 - 「水戸市の移住や定住の促進に向けたまちづくりについて」

令和6年11月28日（木） **第5回市政モニター提言書作成会議**

【会議内容】

- ・意見交換

「提言の発表について」

「提言書（案）について」

令和7年1月16日（木）

第6回市政モニター会議

【会議内容】

- ・「提言の発表について」

令和7年2月6日（木）

市政モニター提言書発表会

【会議内容】

- ・提言書の提出

市政モニター会議の様子

